

## 巻頭言

パーキンソン病(Parkinson's disease, PD)は、安静時振戦、筋固縮、無動などをきたす代表的な神経変性疾患(神経難病)で、中脳黒質のドーパミン神経等が減少することで起こる病気です。その診断は、ベドサイドの診察が基本ですが、近年、脳 DAT(dopamine transporter scan)SPECT、心筋 <sup>131</sup>I-metaiodobenzylguanidine (MIBG)シンチグラフィにより、高い精度で比較的容易に、診断が行えるようになってきました。治療は、L-ドパ・ドーパミンアゴニストなどの薬物療法が主体ですが、近年、深部脳刺激療法も広く行われ、運動機能の改善が得られるようになってきました。

PDでは、泌尿器科医・消化器科医の間で広く知られておりますように、過活動膀胱・便秘をはじめとする多彩な「非運動症状」がみられます。このうち、下部尿路機能障害(神経因性膀胱)については、近年の下部尿路の生理学・薬理学の進歩により、かなりのことが明らかにされていますが、中枢の影響については、なお不明の点もみられます。ウロダイナミクスを行いますと、PD患者さんの下部尿路機能障害(神経因性膀胱)は、排尿筋過活動(detrusor overactivity, DO)が多く、残尿が少ないことから、典型的な中枢性の神経因性膀胱をきたすことが明らかにされてきています。その他、PDの蓄尿期の異常として、DOを伴わない膀胱知覚過敏、排尿期の異常として、残尿は少ないものの、軽度の排尿筋低活動が、一部の患者さんにみられます。さらに、合併疾患として、前立腺肥大症、腹圧性尿失禁、(夜間)多尿を伴うことも少なくありません。これらの中で、PD患者さんのDOは、過活動膀胱(overactive bladder, OAB)症状をきたします。一方、PD患者の下部尿路機能障害の治療に際して、どのような点に気をつけて行うべきなのか、どのような効果が予想されるのか、これまで、十分にまとまった参考資料がほとんどなく、治療の選択等で難渋する場面が少なくなかったように思われます。これらの点について、実際にPD患者さんの下部尿路障害の治療にあたっておられる、泌尿器科医・神経内科医・広く一般内科医の先生方から、身近で使えるガイドラインの必要性が聞かれておりました。

この問題に対処すべく、今回、日本排尿機能学会において、パーキンソン病における下部尿路機能障害診療ガイドライン作成委員会を中心に、「パーキンソン病における下部尿路機能障害診療ガイドライン」を作成いたしました。PDの下部尿路機能障害は、病態面では、中枢性の神経因性膀胱の中で、最も研究が進んでいる領域と思われませんが、なお不明な点が少なからずみられます。治療面では、多数例無作為2重盲検による介入研究が、残念ながらまだほとんど行われておりません。これらのため、従来のガイドラインと異なり、本ガイドラインは、推奨グレードが若干低くなり、大多数がエビデンスレベル3の論文となることが予想されました。しかし、本ガイドラインは、下部尿路機能障害で悩んでおられるPD患者の治療を、科学的かつ実際的に行う最初のステップになるものと考え、あえて作成に取り組むことと致しました。

本ガイドラインでは、第1部としてパーキンソン病における下部尿路機能障害の診療アルゴリズムを掲載致しました。

アルゴリズム1は、神経内科医・一般医家に、アルゴリズム2は、泌尿器科医に向けたものです。

続く第2部のClinical Questionsは、神経内科医・泌尿器科医・および広く臨床家の先生方に有用な情報を分かり易い形で提供すべく、編集致しました。作成に当たり、ワーキンググループの先生方に、分かりやすく、实际的で、なおかつ科学的な記載を心がけて頂きました。

続いて、第3部の診療マニュアルは、第1部・第2部の理解を深めるために、PDの下部尿路機能障害に関する総論的な事項をまとめたものです。

この「パーキンソン病における下部尿路機能障害診療ガイドライン」が、広く参照され、臨床の場で役立ち、下部尿路機能障害で苦しんでおられるPD患者さんの助けになることを祈念しております。

2017年吉日

日本排尿機能学会  
パーキンソン病における下部尿路機能障害診療ガイドライン作成委員会

パーキンソン病における  
下部尿路機能障害診療ガイドライン

# パーキンソン病における 下部尿路機能障害診療 ガイドライン

編集 | 日本泌尿機能学会  
パーキンソン病における下部尿路機能障害診療ガイドライン作成委員会

Clinical guideline for the treatment of  
lower urinary tract dysfunction in Parkinson's disease  
The Japanese Continence Society(JCS)

編集 | 日本泌尿機能学会

日本神経治療学会  
日本自律神経学会

推薦

パーキンソン病患者の非運動症状としての  
下部尿路機能障害(神経因性膀胱)診療についてまとめた、  
本邦初の診療ガイドライン!

IP

中外医学社